

海南高等学校

実施日時	令和2年11月17日(火)
参加者	生徒559名、教職員40名 計599名
実施内容	避難訓練、防災学習、マイトイレ作り

ねらい

- 1 自律的に安全な行動ができる態度や能力を身に付ける。
- 2 地域の防災を担うリーダーの育成を図る。

主なプログラム

- 1 (全校生徒) 避難訓練
- 2 (1学年)
 - (1) 防災学習 I (体育館)
 - S I T P 防災班発表
 - クイズによる防災学習
 - アルファ化米の説明
 - (2) 防災学習 II (HR 教室)
 - マイトイレ作り
- 3 (2学年)
 - 地理選択生による防災に関する発表

概要

1 避難訓練

全校生徒がHR 教室での授業中に緊急地震速報が発令されたという想定のもと、授業担当者が今回の避難場所であるグラウンドへ誘導した。全員の避難完了を確認した後、海南市消防本部職員が訓練についての講評を行った。



2 防災学習 I・II (1学年)

防災学習 I では、まず S S H 学校設定科目 S I T P の防災班による発表を行った。その後、4名1班でのクイズによる防災学習とアルファ化米について学習した。

防災学習 II では、生徒ボランティア委員の指導のもと、新聞紙からマイトイレを作成した。



3 防災に関する発表 (2学年)

普通科地理選択生60名が、下記の7テーマに分かれて発表した。(生徒は2テーマを選択・受講) 各HR 教室、多目的教室、社会科教室、視聴覚教室を会場としたが、準備・片付けはすべて生徒ボランティア委員が行った。

- ① 防災グッズ
- ② 災害時の搬送法
- ③ 災害救護・看護
- ④ 災害時の身の守り方
- ⑤ 地震・津波のメカニズム
- ⑥ 避難所運営ゲーム
- ⑦ 過去の災害から学ぶ



参加者感想文

- ・負傷者の運び方を初めて学んだ。実際、運ぶ練習をしたが、身長が合っていないと体重を支えることが難しいことが分かった。
- ・身の守り方についての発表はクイズ形式になっていて、楽しく学ぶことができた。机に入った時の正しい体勢や正しい逃げ方、災害用伝言ダイヤルなど、たくさん知ることができた。さらに防災についての知識をつける必要があると思った。
- ・「普段は病院に勤務していて、災害が起こったらすぐに駆けつけ救護や医療処置を施す」という DMAT の活動を知った。また、現在のコロナ禍における DMAT の活動について感動した。
- ・私の家では防災グッズはなく、食料の貯蓄もあまりしていない。まずは家族にもっと危機意識を持ってもらえるように話をしていきたい。
- ・避難所では高校生として地域の人々に勇気を与えられるようになるべきだし、高齢者や幼い子供を避難所まで誘導できるようになりたい。そのためにも、普段から防災意識を高く持つことが大切だと思った。
- ・まずは自分の命を最優先にし、次に周りの人など困っている人の助けになれるように、高校生としてできることをしたい。

成果と課題

【成果】

- ・今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で防災スクール自体中止も考えたが、昨年同様とはせず、内容を検討しながら実施できたことは大きな成果である。また、生徒の参加意識を向上させるために、今年度は実施前に生徒会が校内放送で「防災スクールの意義」について説明を行った。
- ・避難訓練では、慌てることなく避難場所へ移動することができた。また、校舎改築のため普段の避難経路を使用できないクラスもあったが、新たな経路を検討し実施することができた。
- ・1年生では初めての学習成果発表となり、緊張はしていたものの、やり終えた達成感や、初めてのマイトレ作りで防災意識の向上が見られた。
- ・2学年では、防災意識の向上とプレゼンテーション能力の向上につながった。また生徒ボランティア委員の活躍もあり、主体的に取り組む生徒が多かった。

【課題】

- ・避難訓練では、生徒からはあまり緊張感は感じられなかったため、少し時間がかかってしまった。来年度に向けて、事前指導を徹底させる必要がある。
- ・生徒のプレゼンテーションの仕方やパワーポイント資料にも、改善の余地が見られた。さらに指導していく必要がある。
- ・全体の課題としては、近い将来に起こるとされる南海トラフ地震で大きな津波の発生が予想されることから、校舎の上層階への避難訓練も計画する必要がある。